

小 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

目次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究内容	3
VI	研究の成果と課題	23

研究主題

生活科における気づきの質を高める指導の工夫

～他者との協働や伝え合い交流する活動を通して～

I 研究主題設定の理由

学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている（平成28年12月21日 中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）から）。また、小学校学習指導要領（平成29年）解説生活編では、主体的・対話的で深い学びからの授業改善の視点に基づいて進める学習指導の留意点の一つに、対話的な学びの視点による指導について以下のことが明記されている。

生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたりするようにする。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることを踏まえ、他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の学びを質的に高めるようにする。また、双方向性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、感じ、考え、気付くことなどして対話的な学びが豊かに展開されるようにする。

しかし、東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会「平成29年度における、生活科・総合的な学習の時間の実施状況アンケート集計結果」によると、気づきを基に考え、新たな気づきを生み出し、関係的な気づきを獲得するなどの深い学びの視点による指導を行っている学校は少ないことが考えられる。

これから生きる子供たちには、他者と協働して課題を解決する力、様々な情報を基に自分なりの認識を構築していく力の育成が必要である。生活科においては、児童が自ら対象に働きかけ、気付いたことを伝え合い、交流したり、振り返って捉え直し、表現したりすることを通して、気づきの質を高めることができる学習活動となるようにすることが必要だと考える。また、生活科の学習過程においては、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の気づきの質が高まることから、生活科における見方・考え方を生かして、児童の思いや願いを実現しようとする学習活動の中で、考えたり表現したりすることを通して、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成していくようにすることが求められる。

以上のことから、研究主題を「生活科における気づきの質を高める指導の工夫～他者との協働や伝え合い交流する活動を通して～」とした。

II 研究の視点

授業実践を通して、以下の2点についての具体的な手だてを明らかにする。

- 児童の思いや願いから学習活動が始まり、気づきを基に考え、関連付けたり認識を深めたりする学習活動を展開すること。
- 自分の考えを伝え合ったり振り返ったりすることを通して、新たな気づきが生まれるような学習環境の整備を行うこと。

III 研究仮説

上記の視点から、対話的な学びを通して気づきの質を高める指導を工夫することによって研究主題に迫ることができると考え、以下の通り、研究の仮説を設定した。

児童が、友達・地域・教師など身の回りの人との関わりと気付いたことを表現し共有する活動を繰り返すことで、気づきの質が高まるだろう。

IV 研究方法

1 基礎研究

研究主題と副主題に関わる「(1)気づきの質の高まりについて」と、伝え合い交流する活動を「(2)対話的な学び」と本研究では位置付け、これらの2点について「小学校学習指導要領解説生活編(平成29年7月)」を分析した。また、研究主題の捉え方を明らかにし、研究の方向性及び研究主題に迫るための手だてを構想した。

2 調査研究

研究仮説に対する教職員と1・2年生の児童の傾向を把握するため、部員所属校の児童及び教師に対し、生活科の授業についての質問紙による意識調査を行い、分析を行った。

- (1) 部員所属校4校の第1・2学年児童(約600人)対象
- (2) 部員所属校4校の第1・2年担任経験のある教員(約80人)対象
- (3) 検証授業終了後、用いた研究が有効であったかどうかを、児童の変容から把握するため、部員の担任している学級の児童(約100人)対象

3 実践研究

研究の視点が有効であるかについて検証授業を行った。

検証授業① 第1学年「なつと なかよし」

検証授業② 第2学年「もっと なかよし まちたんけん」

検証授業③ 第2学年「あそんで ためして くふうして」

V 研究内容

1 基礎研究

「小学校学習指導要領解説生活編（平成 29 年 7 月）」の分析を行い、研究主題「生活科における気付きの質を高める指導の工夫～他者との協働や伝え合い交流する活動を通して～」について次のように考えた。

(1) 気付きの質の高まりについて

「小学校学習指導要領解説生活編（平成 29 年 7 月）」には以下のように示されている。

- ・ 無自覚だった気付きが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気付きが生まれたりすることを、気付きの質が高まったという。（第 2 章第 1 節 3 の(1)より）
- ・ 自分自身や自分の生活について考え、表現することにより、気付きの質が高まり、対象が意味付けられたり価値付けられたりするならば、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「深い学び」の実現こそが求められるのである。（第 2 章第 1 節 3 の(2)より）
- ・ 「資質・能力」の育成のためには、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る」ことが鍵となる。単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気付きの質を高めることを意識することが大切である。（第 4 章第 1 節 1 の(1)より）

これらのことから、生活科の学習においては、試行錯誤したり繰り返したりしながら対象に何度も関わり体全体で学ぶ、気付きの質を高める生活科の学習自体が、主体的・対話的で深い学びである。

(2) 対話的な学びについて

「小学校学習指導要領解説生活編（平成 29 年 7 月）」には以下のように示されている

- ・ 伝え合い交流する活動は、集団としての学習を高めるだけではなく、児童一人一人の気付きを質的に高めていく上でも意味がある。生活科の学習では、一人一人の気付きをみんなで共有し、みんなで高めていくことが重要である（第 5 章第 4 節 2）。

また、1 主題設定の理由にもあるように、解説の対話的な学びの視点による指導についての記述や、第 5 章第 4 節 3 にある、振り返り表現する機会を設けることなどの手だてを繰り返して行うことで、気付きを基に考えたり、考えを広げたり、深めたりし、それらが確かな認識へとつながる。

研究の視点から、授業における手だてを設定する際の視点として、以下 3 点を設定した。

A 様々な人との関わり B 気付きの共有 C 振り返り

手だての視点 A…様々な人との関わり

様々な人との関わりを通して、興味・関心をもったり、考えを広げたりする。

手だての視点 B…気付きの共有

一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気付きが生まれたり、関係が明らかになったりする。

手だての視点C…振り返り

無自覚な気づきを自分の中で明確にしたり、それぞれの気づきを共有し関連付けたりすることができるようにする。また、自らの活動や対象を見つめ直したり、過去のことや周りのことを比べたりする。

2 調査研究

(1) 調査のねらい

教員と1・2年生の児童の実態を把握するため、部員所属校の児童及び教員に対し、生活科の授業についての意識調査を行い、分析した。

(2) 調査項目と内容

ア 児童に対するアンケート：対話的な学びについて

イ 教員に対するアンケート：気づきの質を高める指導について

(3) 調査概要

- 調査期間 平成30年9月
- 調査対象 教育研究員所属校4校
- 調査方法 質問紙による選択肢法

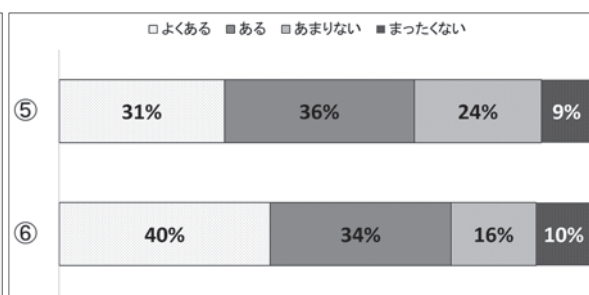
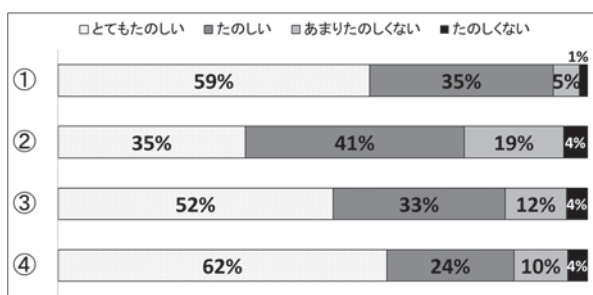
(4) 調査結果と分析

ア 児童に対するアンケート

意見や発表を聞くことや活動したことを絵や言葉でかくことについて楽しいと答えていることから、意欲的に活動する児童が多いことが分かる。一方で、自分が相手に発表することについては苦手な児童もいることが分かる。このことから、「聞く」や「絵や言葉でかくなどして表現する」活動については得意とする児童が多いが、「話す」活動を苦手とする児童がいることが分かる。また、「自分や友達の気づきが役立つ」と感じる児童が少ないことから、これらの改善や「聞く」だけでなく「伝え合う」ことの楽しさを感じるようにすることが必要であると考えられる。

<アンケート項目と集計結果>

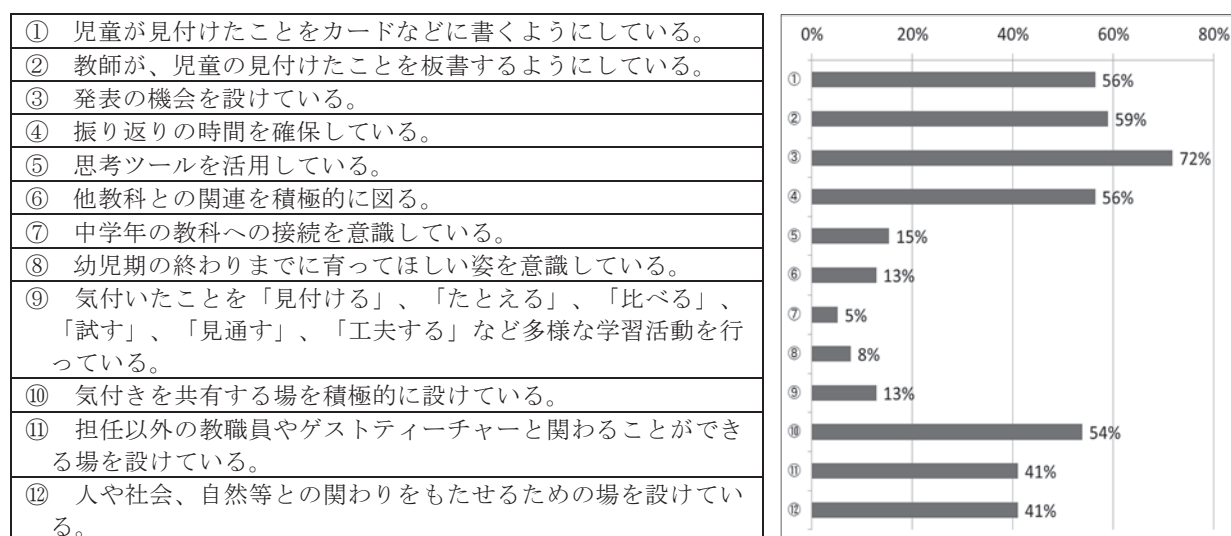
① 生かつかの学しゅうは、たのしいですか。
② 生かつかの学しゅうで、ともだちにはなしたり、はっぴょうしたりすることはたのしいですか。
③ 生かつかの学しゅうで、ともだちのはなしや、はっぴょうをきくことはたのしいですか。
④ 生かつかの学しゅうで、みつけたことを えやことばでかくことはたのしいですか。
⑤ 生かつかの学しゅうで、じぶんやともだちがきづいたことがやくにたったことは、ありますか。
⑥ 生かつかの学しゅうで、まわりの人(ひと)におしえてもらったり、ともだちにきいたりして、わかったことは、ありますか。



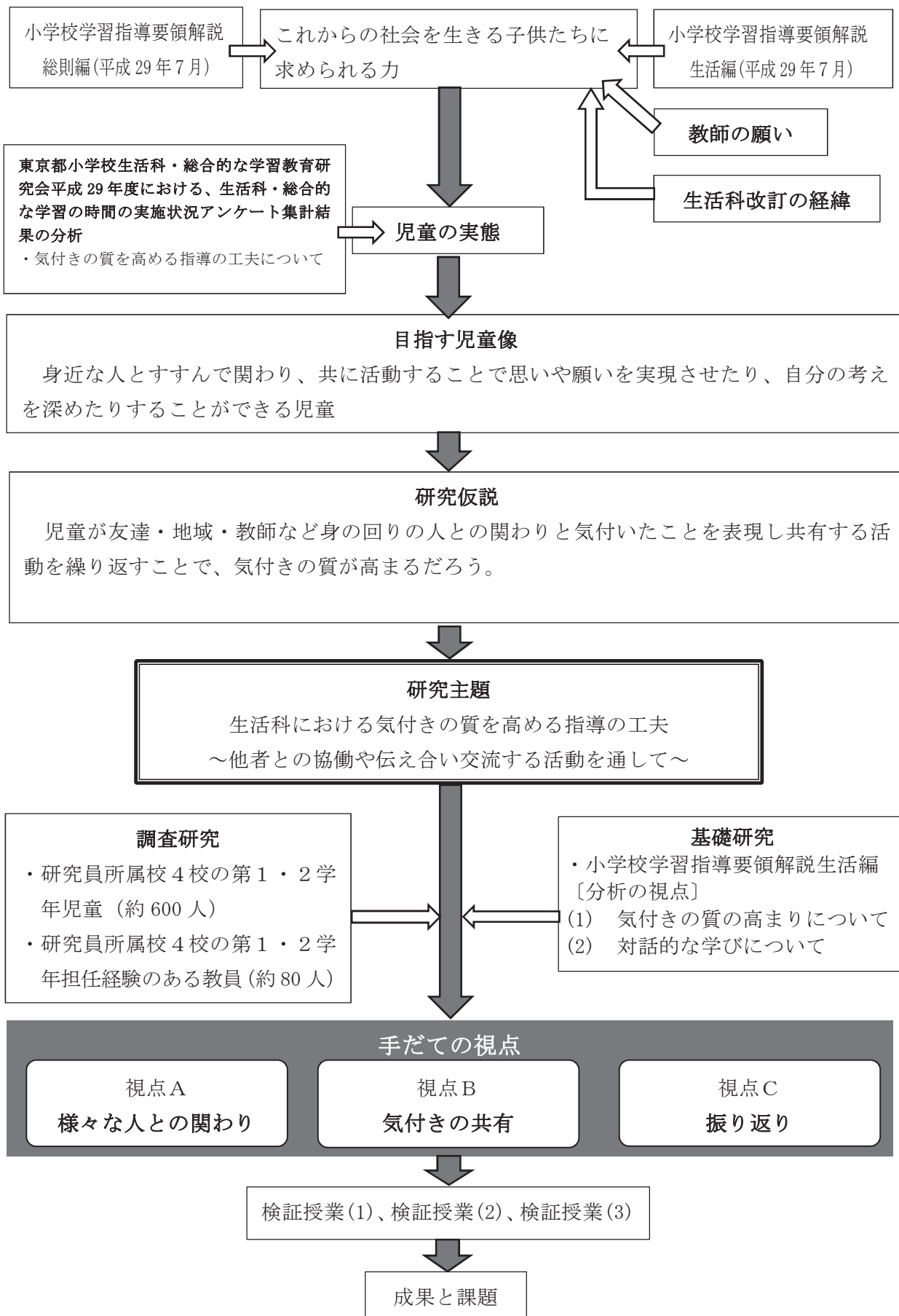
イ 教員に対するアンケート

児童の気づきの質を高めるために意識して取り組んでいることとして、以下12項目から探った。集計結果から、「発表の機会を設けている」が72%で、他の項目に比べて一番高い結果であった。一方で「担任以外の人との関わりができる場を設ける」、「人や社会、自然等との関わりをもたせるための場を設けている」ということについて意識している教員は半数を下回った。これらのことから、児童の気づきの質を高めるために、児童自身が体験したことを表現する活動は行っているが、自分や友達が気付いたことをもとに関わり合って考える活動は、少ないことが分かった。

<アンケート項目と集計結果>



3 研究構想図



4 検証授業

検証授業(1) 第1学年(実施時期9月)

1 単元名

「みんなであそぼう～なつとなかよし～」(全9時間)

2 単元の目標

身近な夏の自然に関心をもち、それらと関わる活動を通して、遊びや自分たちの生活を工夫し、みんなで遊びや遊びに使う物を作る面白さ、自然の不思議さ、遊ぶ楽しさに気づき、自分の生活をよりよく豊かにしようとする。

3 単元の評価規準

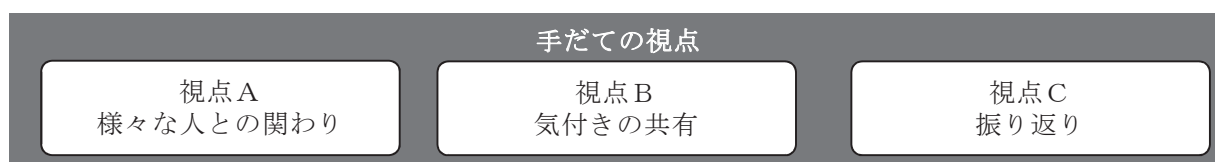
ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
① 身近な自然、季節と自ら働きかけ、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとしている。 ② 思いや願いをもって、遊びや遊びに使うものを作ろうとしている。	① 四季の変化や季節と自分たちの生活とのかかわりを振り返り、自分なりの方法で工夫している。 ② 比べたり、試したりして遊びを工夫している。	① 遊ぶ楽しさや友達と遊ぶと楽しいことに気付いている。

4 単元の概要

本単元では、夏の校庭で身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶ活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しくできたりすることをねらいとしている。

児童は、シャボン玉の道具を工夫して、夏の屋外活動を体験することで、児童に季節感を捉えさせまた、活動を通して児童の気づきや考えを交流して伝え合うことで人との関わりを通した学びを広げていきたい。

5 研究主題に迫るための具体的な手だて



(研究構想図より)

(1) 地域の人々やゲストティーチャーと関わる機会の設定…視点A

- ・ 学期ごとに外部講師(自然の中で植物や生き物を対象にした外部機関)を招き、ネイチャーゲームに取り組む。ネイチャーゲームを基盤とした新たな視点をもつことで、児童の気づきの視点が増えていくことができるようにする。

(2) 気付きを共有する場の設定…視点A・視点B

- ・ 友達との話し合い活動を通して気付きの共有を行えるようにする。2～4人のグループでの話し合い活動を行い、その後、学級全体で共有場面をつくる。
- ・ 個での気付きからペアの気付き、小集団での気付き、全体の気付きへと広げることができるように、少ない人数からだんだん人数を増やし、友達と共感したり、新たな気付きを児童自身が発見できたりするようにする。

(3) 協動的な活動にするための工夫…視点A・視点B

- ・ 話し合い活動を通して、友達と自信をもって関わるができるように、ペアでの活動から3人～6人の小集団での話し合い活動、全体での発表への流れを取り入れた。ペアでの交流で自分の考えに自信をもち、全体で発表することができるようにする。
- ・ 見通しをもち、意欲的に活動できるように話し合い、思いや願いをカードに記入する。

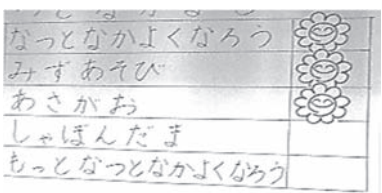
(4) 活動の記録掲示…視点B・視点C

- ・ 互いの考えを共有・振り返りできる場を作るため、活動記録や振り返りシートを教室内に掲示する。

(5) 振り返りの工夫…視点B・視点C

- ・ 学習での気付きを確かなものにし、見通しをもたせられるよう毎時間の最後に振り返りの時間を確保する。
- ・ 振り返りカードや板書に気付いたこと、友達に教えてもらって、できるようになったことをまとめる時間を設定することで、認識が深まったり、生活や次回の活動の中に生かしていこうという思いをもったりすることができるようにする。

6 学習指導計画（7時間扱い）

	○学習活動 ・児童の姿	□支援 研究主題に迫るための具体的な手だて ■評価（方法）
1	<p>なつなあそびをかんがえよう</p> <p>○ 夏となかよくなるために「夏の遊び」を計画する。</p>  <p>・ 夏となかよくなるためには、いっしょにあそびたいね。</p> <p>・ みんなで楽しめることがしたいな。</p> <p>・ 水を使ってあそびたいね。</p>	<p>□ 児童の思いや願いを高めるために、児童のつぶやきをきっかけにして、単元をスタートする。(2)</p> <p>□ 活動が思い描けるようにこれまでの生活を振り返る。(2)</p> <p>□ 共感できる声かけや思いや願いをカードに書くことで一人一人の思いをもち、意欲的に活動に取り組みたいと思うことができるようにする。(3)</p> <p>■イー②（態度・発言）</p>
2	<p>なつとなかよくなろう</p> <p>○ ゲストティーチャーを招き、ネイチャーゲームを行い、夏について新たな視点</p>	<p>□ ゲストティーチャーの話を聞いたり、活動をしたりすることで身近な夏の新</p>

を育てる。

- ・ 夏は暑いから外には行きたくないな。
- ・ 公園で虫を見つけたことあるよ。
- ・ 虫の声は聞こえてくるけど、見つけたことはないよ。
- ・ 虫の名前は初めて見つけた人がつけていいんだね。
- ・ 虫の形や色をよく見て名前がついているんだね。
- ・ とげとげしている虫だね。名前にとげとげがついているんだね。



夏には虫がたくさんいるけど、校庭にはどんな虫がいるのかな。

- 3 ○ みんなで話し合っただけ決めた遊びを、みんなで楽しむ。

あれ、どうやって水を入れているのかな。



- ・ ペットボトルに水がなかなか入らないな。
- ・ 水をたくさんペットボトルに入れるためにはどうしたらいいのかな。
- ・ 水がかかると気持ちがいいな。
- ・ たくさん水を飛ばしたい。どうしたらいいのかな。
- ・ 遠くに水を飛ばしたい。
- ・ ぼうしや洋服に水をかけたら、ぼうしの色が変わったよ。
- ・ 水をかけると楽しいね。

- 4 ○ 遊びの中で気付いたことを話し合い活動を通して、表現し、他のグループの遊びを自分の活動に取り入れてみようとする。

たな視点を育てる。〔1〕

- 夏の植物や生き物を見たり、感じたりするための視点づくりとして、虫の名前の由来や植物の特徴（大きさ、形、色、匂いなど）に気が付くことができるネイチャーゲームを行う。〔1〕〔2〕〔3〕
- 気付いたこと、感じたことを共有できるようにワークシートに記入し、掲示する。〔4〕

■ア－①（態度・発言・カード）

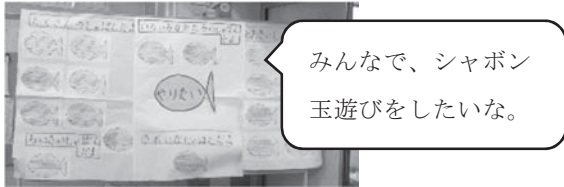
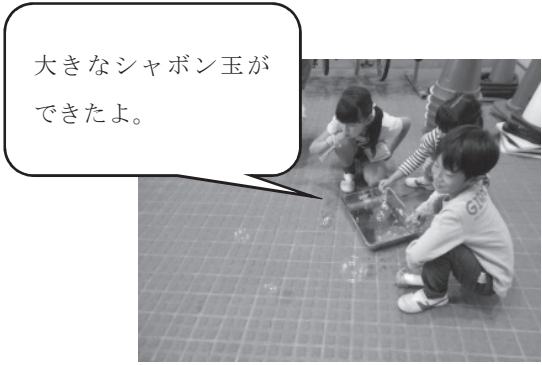
■ウ－①（態度・発言）

- それぞれの遊び方を教師が共感し、言葉かけをすることで遊びを楽しむことができるようにする。〔2〕
- 児童が感じ取った事柄を教師が尋ね返したり、共感したりして自分自身の気付きを自覚できるようにする。〔2〕

■ア－②（態度・発言）

- 共通体験を取り組んだ後に個での考えを深めるために振り返りカードを活用する。〔5〕
- 夏の遊びに興味・関心をもって取り組めるように板書やまとめから発言できるようにする。〔3〕

- 自分の思いをペアで伝え合うことができる場を作る。〔2〕
- 新たな気付きや友達の良かったところ

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シャボン玉たくさんできたよ。 ・ シャボン玉、高くとんだよ。 ・ 風がふくと遠くへとぶね。 ・ ストローの先を切るとたくさんシャボン玉ができるよ。 ・ 私にも貸してほしいな。 ・ 同時にとぼしたらどっちが高くとぶかな。 ・ 今度は大きなシャボン玉を作りたい。 ・ クラス全員で一斉にとぼしたい。 ・ 優しくふくとたくさんできるよ。 	<p>ろに気付くことができるように児童の活動や発言を取り上げ、共有する声かけをする。(2)</p> <p>□ 共有体験を通して気付いたことを友達と伝え合う時間を設定する。(2)(3)</p> <p>■イー②(態度・発言・カード)</p> <p>■アー①(態度・発言・カード)</p>
<p>5 6 7</p>	<p>もつとなつとなかよくなるう</p> <p>○ 7月の頃と比べて変わったことに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ せみの声が聞こえなくなった。 ・ 水泳の勉強が終わったね。 ・ 水で遊ばなくなったね。 <p>○ 夏の遊びで楽しかったことを振り返る。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 今度は大きなシャボン玉を作りたい。 ・ たくさんのシャボン玉を作りたい。 <p>○ 1年生最後の夏の遊びをみんなで楽しむ。</p> 	<p>□ 友達と一緒にしたから楽しかった。もっと友達と関わりたいという思いをもつことができるように発言の場を設定する。(5)</p> <p>□ 振り返りの時間を確保し、気付いたことをカードに書いたり、友達と伝え合ったりしている。(5)</p> <p>□ 思いや願いをワークシートに書いたり、友達と相談したりして、自覚できるような場の設定と実現できるようなアドバイスを。(2)(5)</p> <p>□ 単元全体の活動を振り返り、新たな気付きや友達の良かったところに気付くことができるように児童の活動や発言を取り上げ、共有する声掛けをする。(2)</p> <p>□ 共有体験を通して気付いたことを友達と伝え合う時間を設定する。(2)</p> <p>□ 友達と関わって遊ぶことができるように共通体験の場を設定し、関わりながら気付きを深める。(3)</p> <p>■ウー①(態度・発言・振り返りカード)</p>

7 検証授業を振り返って

○ 手だての視点A(様々な人との関わり)について

普段の学習過程で学期ごとにネイチャーゲームを設定した。年間を通して身近な自然である校庭や近くの公園に出かけ、木々や植物、虫などの生き物に直接触れ合った。その中でゲストティーチャーとの活動を通して、身近な自然の今まで気付かなかった新たな視点をもつことができた。ネイチャーゲームの活動で「どうしてだろう。」や「いつも通る道にも同じ木があったよ。」など自分たちの身近な自然や生活にも広げて、考えることができた。自然に触れる活動を多く設定することで、今までにはなかった自分の思いや願いに気付き、表現したいと考えることができていた。客観的に観察することだけではなく、自分との関わりとして捉え、強い興味・関心をもつことができた。

虫の名前は、色々な理由で名付けられているんだね。



○ 手だての視点B(気付きの共有)について

自分の気付きを友達に伝えることで、自分の考えに自信をもつことができた。また、友達の気付きにも共感し、「なるほど。」と新たな気付きと自分の良いところ、友達の良かったところに気付くことにもつながった。友達の遊び方に「どうやったの。」や「すごいね。やり方を教えて。」など自分自身の体験を言葉で表し、他者との協働や伝え合い交流する活動により、感じ、考え、気付くなどの学びが展開された。繰り返し表現活動を位置付けることで、「こんなことに気付いたよ。」や友達の遊びにも「こうやるとできるかもしれないよ。」など教えたり、教えてもらったりする姿が見られた。また、振り返りの場面では、自分の発表を友達が聞き、うなずいたり、「いいね。」と友達が賛同してくれたりしてもらうことで、自分の気付きや工夫を伝えたいという気持ちが高まり挙手や発表したい児童が増えた。学級全体の集団としての学習を高めるだけではなく、児童一人一人の気付きの質も高めることができると考える。

○ 手だての視点C(振り返り)について

ワークシートに記入してから、話し合い活動をすることで、自分の思いや願いが明確になり、さらに膨らませることができた。

個での気付きをペアで発表した。自分の考えを伝え、友達が頷いてくれることで自分の考えに自信をもつことができた。また、全体への発表につなげることができた。友達の考えを聞き、自分の考えとは違う視点をもつこともできた。

振り返り表現する活動を通して、自分の気付いたことを発表して、友達が「いいね。」と喜んでくれたり、「私もやってみたい。」と褒めてもらえたりすることで、本人にとってはなにげないつぶやきや感想など、無意識だった気付きが自分の中で明確になった。振り返りを通してそれぞれの気付きを発表し、カードに書いたものを同じ気付きごとグループ分けして掲示した。友達の発表を聞き、「わたしも同じことをしてみたい。」とまねをしたり、「ぼくの遊びとどこがちがうのかな。」と考えたりしていた。自分の生活や活動に関連付けている姿が見られた。

検証授業(2) 第2学年(実施時期10月)

1 単元名

「もっとなかよしまちたんけん」(全20時)

2 単元の目標

地域には生活したり、働いたりしている人たちへ質問をしたり、一緒に何かをしたりするなど地域の人々と関わる活動を通して、それらの人々と自分たちの生活の関わりに気づき、地域の人々に親しみ愛着を持つとともに、人々と適切に接したり、安全に生活したりすることができる。

3 単元の評価規準

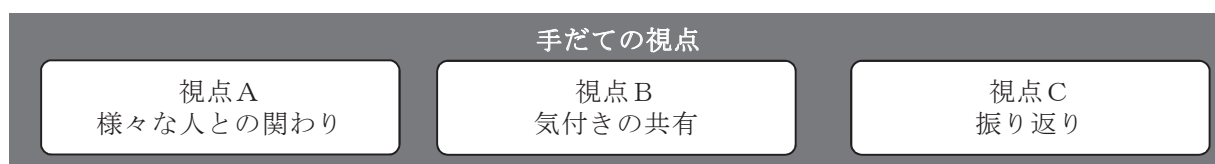
ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
<p>① 身近な地域の様々な場所に関心を持ち、見たり調べたりしようとしている。</p> <p>② 探検先にあるものを見たり、探検先の人に話を聞いたりしたことを、進んでメモを取ろうとしている。</p> <p>③ 地域の出来事を身近な人々と伝え合うことに関心を持ち、すすんで交流しようとしている。</p>	<p>① 地域の好きな場所やお気に入りについて話したり、ウェビングマップに書いたりして表現している。</p> <p>② 興味のある人や場所、マナーなどについてグループで話し合っている。</p> <p>③ 探検して気付いたことや分かったことを自分なりに考えてカードや付箋に書いて、友達に伝えている。</p> <p>④ 自分の考えを伝えたり相手の考えを取り入れたりしながら、交流をしている。</p>	<p>① 地域にはさまざまな場所があり、多様な人々が生活したり働いたりしていることに気付いている。</p> <p>② 自分たちの回りには素敵な場所があり、素敵な人がたくさんいることに気付いている。</p> <p>③ 親しみや愛着のある場所が増えたり、いろいろな人と適切に接したりすることができるようになった自分に気付いている。</p>

4 単元概要

本単元「もっとなかよしまちたんけん」では、町探検を通して、児童の生活圏に存在する身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、人の生活や様子に気付くことをねらいとしている。

町探検で気付いたことをマップに整理し可視化することで、地域で生活する様々な場所や人について着目することができるようにし、自分たちの生活とつながっていることに気付かせたい。また、ゲストティーチャーを呼んだり、地域の人にインタビューしたりすることで、人や社会のよさに気づき、地域の様々な場所や人々に親しみや愛着をもたせる。さらに、実際に繰り返し地域に出かけ、親しみや愛着をもつ人や場所を増やすことで、「自分の町が大すき」「自分の回りにすてきな人がいる」という気持ちをもたせ、地域が安心して生活できる場と感じられるようにしていきたい。

5 研究主題に迫るための具体的な手だて



(研究構想図より)

(1) 地域の人々やゲストティーチャーと関わる機会の設定…視点A

- ・ 地域の人々との交流やゲストティーチャーと関わる機会を設定する。話を聞く活動を通して、「地域の人々の思い」に気付かせる。

(2) 意見を交流する機会の設定…視点A・視点B

- ・ 授業で友達との話し合い活動を通して気付きの共有を行えるようにする。2～4人のグループでの話し合い活動を行い、その後、学級全体で共有場面をつくる。

(3) 思考ツールの活用…視点B

- ・ 意見や考えを整理することができるよう思考ツールを活用する。また、ホワイトボードや付箋を使用し互いの意見を可視化し、思考を整理しながら学習できるようにする。

(4) 協動的な活動にするための工夫…視点A・視点B

- ・ 自分たちの調べたい場所や店ごとにグループを作り、協動的に活動し、気付きを共有し認識を深めることができるようにする。

(5) 活動の記録掲示…視点B・視点C

- ・ 互いの考えを共有・振り返りできる場を作るため、活動記録を教室内に掲示する。
- ・ 「生活科のわくわくコーナー」として、活動の写真を掲示しどんなことをして、何を考えたかを振り返り共有できる場を作る。




(6) 振り返りの工夫…視点C

- ・ 学習での気付きを確かなものにし、次の活動の見通しをもたせられるよう毎時間の最後に振り返りを行う。
- ・ 単元のこれまでの自分の気付きを振り返ることができるよう振り返りカードを画用紙に貼り付け、いつでも確認ができるようにする。

6 学習指導計画（20時間扱い）

	○学習活動 ・ 児童の姿	□支援 研究主題に迫るための具体的な手だて ■評価（方法）
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> まちたんけんをしよう </div> ○ 自分たちの地域にはどのような場所があるか話し合う。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-left: 10px;"> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">十二社神社にはご神木があった！</p> </div> </div>	□ 児童が興味・関心を広げることができるよう、町に住む人や場所を掲示しウェブマップを用いて話し合い、思考を広げることができるようにする。 (3) ■ア①（発言・態度）

<p>2 ○ 安全に気を付けて地域を探検する。</p> <p>3 ○ 気付いたことをカードにメモする。</p>	<p>4 ○ 見付けたことをマップにまとめて、地域を探検して気付いたことや思ったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お店がたくさんあったね。 <p>5 ○ 次に行きたいところを話し合う。</p>	<p>■イー① (発言・プリント)</p> <p>■アー② (カード)</p> <p>□ 探検した場所で経験したことを思い出し、付箋に書いて可視化させ交流し、自分との関わりを意識できるようにする。</p> <p>(3)</p> <p>□ 活動の終わりに「振り返りカード」に今日したこと・思ったこと・次にやりたいことを記入することを通して、気付いたことを整理したり、次の活動への意欲をつなげたりすることができるようにする。</p> <p>(6)</p> <p>■ウー① (カード)</p>
<p>6 もういちど、まちたんけんをしよう</p> <p>7 ○ グループに分かれて探検の計画を立てて、準備する。</p> <p>8 ○ 自分のお気に入りの場所をグループごとにもう一度を探検し、人や場所と関わる。インタビューのお願いをする。</p>	<p>サンドイッチは、何で作っているのかな？</p> <p>たたみのおいがする！機械は何に使うのかな</p> <p>9 ○ 探検して分かったこと、気付いたことを学級で伝え合う。</p>	<p>□ 自分たちの調べたい場所や店ごとに集まってグループを作り、一緒に活動をするすることで、協動的な活動を通して気付きを共有し、認識を深めることができるようにする。</p> <p>(4)</p> <p>□ 地域の人や場所と繰り返し関わり、知りたいことや思ったことをインタビューしたり、体験したりできるようにする。</p> <p>(1)</p> <p>■イー② (態度・発言・カード)</p> <p>■アー① (発言・態度)</p> <p>■イー③ (探検カード)</p>
<p>10 ゲストティーチャーの話を聞こう</p> <p>11 ○ ゲストティーチャーの話を聞き、感じたことや思ったことを振り返る。</p> <p>12 お客さんのためにがんばっているんだね。</p> <p>13 ○ グループに分かれて、話してみたい人へのインタビューの準備をする。</p>	<p>1日に何人来るのかな。働いていてうれしかったことはあるのかな。</p>	<p>□ ゲストティーチャーの話から、地域の人の思いに気付かせ、それらを聞く質問があることに気付く。</p> <p>(1)</p> <p>□ 活動の終わりに「振り返りカード」に今日したこと・思ったこと・次にやりたいことを記入することを通して、気付いたことを整理したり、次の活動への意欲をつなげたりすることができるようにする。</p> <p>(6)</p> <p>■アー① (態度・振り返りカード)</p> <p>■イー④ (探検カード)</p>

14 15	<p>まちの人にインタビューしよう</p> <p>○ 再度町探検をして、地域の人や場所と関わる。</p> <p>1日に200個も作るんだって！店長さんもパンが好きなんだ！</p> 	<p>□ 地域の人や場所と繰り返し関わり、知りたいことや思ったことをインタビューしたり、体験したりできるようにする。(1)</p>
16	<p>○ インタビューしたことを振り返り、分類して、町探検をして分かったことを伝え合う。</p> <p>サンドイッチ屋さんには、1日に100人来るんだって。手作りだよ。</p> 	<p>□ グループでの話し合い、学級全体での気付きの共有場面を作る。(2)</p> <p>□ 探検した場所で体験したことを振り返り、友達との意見の交流を通して、地域の人と自分との関わりを意識できるようにする。</p> <p>■ウー②（発言・振り返りカード）</p>
17 18 19 20	<p>すてきはっぴょう会をしよう</p> <p>○ すてき発表会の計画を立てる。</p> <p>○ 「すてき発表会」で、町探検をして分かったことを振り返り、表現し、友達と交流する。</p> <p>知らなかったことがたくさんあるね。もっと話を聞きたいな。</p>  <p>○ 振り返りを行い、自分への認定証を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町についてたくさん知ることができた。 ・ インタビューができるようになったよ。 	<p>□ 学年全体でまとめたことを発表し、気付きの共有を行えるようにする。(2)</p> <p>■アー③（態度・発言）</p> <p>■イー④（態度・発表）</p> <p>■ウー③（振り返りカード）</p> <p>□ この単元で学習してきたことを振り返り自分の成長を意識できるようにする。(6)</p>

7 検証授業を振り返って

- 手だての視点A(様々な人との関わり)について

児童が自分から関わりたいと思った地域の方と交流することで、「こんなことを聞きたいな」という発言が見られたり、インタビューをたくさん考えたりして相手のことを知りたいという意欲的な姿が見られた。また、ゲストティーチャーとの交流場面を設定することで、「人の思い」について聞く質問があることに気付き、インタビューや探検の活動を通して「地域の人の思い」について気付くことができた。様々な人との交流は、深い学びを促し気付きの質を高めるための基礎として欠かせないものであると言える。また、町探検後のグループ内での話し合いの場面や、気付きをほかのグループと共有する場面を設定することで、地域の人々の思いに気付く姿が見られた(例①)。地域の施設の存在を知るだけではなく、その役割や、自分たちの生活を支えてくれている人がいることにも気付けた。



サンドイッチは、キッチンで作ります！

デリバリーは、あつあつを届けたいので急ぎます。

機械じゃなくて手作りなんだ！

お客さんのことを考えている。やさしい。



例①：交通公園グループ

【グループ内での気付きの共有】
交通事故が多くなって、ルールを学べるように交通公園ができた。自転車にはじめて乗れた子が喜んでくれるとうれしいと言っていた。祝日には300人ぐらい来る。

【思い】
事故を減らすために、交通公園ができたなんて知らなかった。係のおじさんが、みんなのために交通公園を始めていてくれたからうれしかった。交通公園はいい公園だなと思った。ほかの場所もみんなのためにやってくれていることがあると思う。

○ 手だての視点B(気付きの共有)について

同じ場所を調べたい児童同士でグループを組むことで、発見したことや気付いたことを十分に共有することができた。その際、ウェビングマップやホワイトボードを使って意見を可視化し、整理しながら話し合いをすることができた。新しい気付きを生む様子が見られた(例②)。また、これまでの学習してきたことをすぐ振り返ることができる環境設定を行った。グループごとに調べた内容を教室内に掲示したことで、普段から町探検のことについて思い出したり話し合ったりする姿も見られた。



わくわくコーナー



ウェビングマップ



マップ

例②：サンドイッチ屋さんグループ



店員さんの数は、大体2人だって。お店は、夜8時までやっているんだよ。

休憩がないのに夜8時までやるってすごいと思った。お客さんは1日100人来るのに、2人で仕事をしていてすごいと思った。

○ 手だての視点C(振り返り)について

カードに記入する振り返りを毎時間の最後に確保したことで、児童の気付きが整理され、気付きの改善や気付きの再認識が見られた。また、自己の成長に気付く姿も見られ気付きの質が高めることができた。

一方で、振り返りを学級内で共有させることをねらったが、1時間の中での活動は難しく個人の気付きにとどまってしまうことが多かった。対話的な活動を通しての気付きの共有を行うために、展開方法や時間の確保などで対応していくことが必要である。

検証授業(3) 第2学年(実施時期 11月)

1 単元名

「あそんで ためして くふうして」(全18時)

2 単元の目標

身近にある物や自然を利用して、遊びや遊びに使うものを工夫して作り、友達と遊ぶ活動を通して、その面白さや不思議さに気づき、自分の生活を広げ豊かにすることができる。

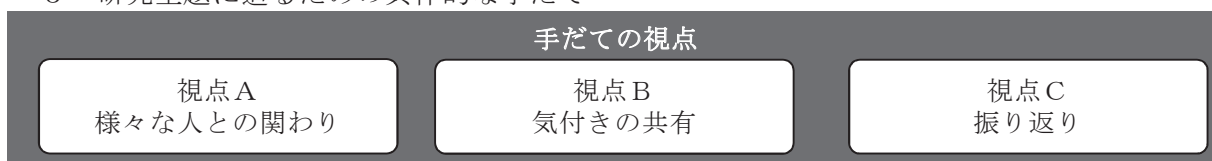
3 単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
<p>① 身近にある物や自然を利用した遊びに関心をもって遊ぼうとしている。</p> <p>② 思いや願いをもって、遊びや遊びに使う物を作ろうとしている。</p> <p>③ 友達や1年生と関わりながら、楽しく遊ぼうとしている。</p>	<p>① 身近にある物や自然の中から、遊びを考えたり、使ってみたい物を見付けたりしている。</p> <p>② 比べたり、試したりして遊びを工夫している。</p> <p>③ 遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。</p> <p>④ 遊びを工夫したり、友達と関わって遊んだりしたことを振り返り、表している。</p>	<p>① 身近にある物や自然を利用して遊べることに気付いている。</p> <p>② 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したたりする面白さに気付いている。</p> <p>③ 自然の中のきまり、事象や現象の不思議さに気付いている。</p> <p>④ 遊ぶ楽しさや友達と遊ぶと楽しいこと、身近にあるものを使って楽しく遊べることに気付いている。</p>

4 単元概要

本単元「あそんで ためして くふうして」では、使いたい物と遊びや活動の方向を自己決定し、繰り返し対象と関わる活動を行う。思いや願いをもち、自己決定を繰り返していくことを通して、すすんで身の回りの物に関わり、それらには特徴や特性があること、また、特徴や特性を生かして遊びや遊びに使う物を作る面白さや、自然の不思議さなどを感じることができるようにする。また、様々な人とすすんで関わり、体験したことをもとに気付いたことを表現し、思考を整理することや自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童を育てていく。

5 研究主題に迫るための具体的な手だて



(研究構想図より)

(1) ゲストティーチャーや校内の教職員との交流する機会の設定…A

- ・ 「だいすきいっぱいわたしのまち」で出会った地域の図書館の方にゲストティーチャーとして来校していただき、身近にある物を使った遊びや自然の不思議さを題材にしたお話をしてもらうことで、身近にある物を使った自然の不思議さに興味・関心をもつことができるようにする。また、団体貸し出しで図書館の本を借りることで、興味・関心を広げたり、困った時の解決方法を自分で見付けたりすることができるようにする。
- ・ 朝読書の時間に学校の図書館司書の先生に身近にある物を使った遊びの絵本の読み聞かせや本の紹介をしてもらう。司書との関わりを通して、身近にある物を使った遊びの興味・関心を広げることができるようにする。また、調べたいことがある時の選択肢として、図書館があることにも気付くことができるようにする。

(2) 異学年の児童との交流する機会の設定…A

- ・ 単元の終わりには、自分たちが考えた遊びを1年生と一緒にやる時間を設定する。他学年との交流を通して、自分の考えをより確かなものにしたり、新たな視点で考えたりすることができるようにする。

(3) 活動の様子の掲示…視点B

- ・ 遊んだり作ったりしている中での一人一人の気付きやグループでの気付きを共有できるように活動中での気付きを写真で掲示する。
- ・ 活動の様子を写真やビデオで撮影して振り返りの際に投影したり、教室や廊下に今までの遊びの様子の写真を掲示したりすることで、自分の考えを深めたり、新たな視点へとつなげたりすることができるようにする。

(4) 思考ツール等の活用…視点B

- ・ 付箋やミニホワイトボードを使用しながら、考えるための技法（ウェビングマップ、エリアチャート等）の要素を取り入れることで、思考を整理しながら交流する。
- ・ 友達の書いた付箋を読んで「いいね」と思った付箋に星形の「いいねシール」を貼る。

(5) おさんぽタイムの設定…視点B

- ・ 1時間の後半に「おさんぽタイム」を取り、友達と活動の様子を見合うようにする。




(6) 振り返りカードの活用…視点C





- ・ 自分自身の活動を振り返ってカードに記入することや学級全体での振り返りを通して、気付いたことを再認識したり、自分自身の成長に気付いたりすることができるようにする。また、次の活動の意欲へとつなげることができるようにする。

(7) 名人認定証の作成…視点C

- ・ 単元の最後に、自分自身を振り返り、特に成長したと思うことを自分で考えて具体的に記入する名人認定証を作成することで、友達と単元を通して成長したところを共有したり、自分自身の成長に気付いたりすることができるようにする。

6 学習指導計画（18時間扱い）

	○学習活動 ・児童の姿	□支援 研究主題に迫るための具体的な手だて ■評価（方法）
1 2 3 4	<p>たのしく あそぼう</p> <p>○ 身近にある物に十分に触れ、そこからいろいろな遊びを発想し、楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家から空き箱を持って来たよ。 ・ 「わくわくボックス」がいっぱいになってきたよ。これを使って遊びたいな。 ・ 次の時間は、作って遊びたいな。  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">重ねたり、滑らせたりいろいろなことができるね。</p>  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">家にある物で楽しく遊べました。</p>	<p>□ わくわく広場（生活科コーナー）に身近にある自然や物を使った遊びに関する絵本や図鑑を展示し、朝読書の時間に読み聞かせをすることで、興味・関心をもつことができるようにする。</p> <p>□ 児童が持ってきた物を入れる「わくわくボックス」を設置し、遊びたいという思いを高めることができるようにする。</p> <p>□ 様々な物の中から好きな素材を選び、十分に触れ、その特徴を生かした遊び（転がす、積む、並べる、はじく、たたく、当てる、分ける等）ができるように支援する。</p> <p>□ ウェビングマップを用いて、気付いたことを友達と共有することで、素材から様々な遊びができることを再認識したり、気付いたことから次にやりたいことを見付けたりすることができるようにする。</p> <p>(4)</p> <p>□ 活動の終わりに「振り返りカード」に今日したこと・思ったこと・次にやりたいことを記入することを通して、気付いたことを整理したり、次の活動の意欲へとつなげたりすることができるようにする。</p> <p>(6)</p> <p>■ア-①、イ-①（行動・発言・ウェビングマップ・振り返りカード）</p>
5	<p>○ 地域の図書館の司書のおはなし会や学校図書館の司書の読み聞かせを聞く。</p>  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">箱でいろいろな物が作れるんだね。</p>	<p>□ 司書の話聞いて、興味・関心を広げたり、知りたいことがある時には図書館で調べてみようという思いをもつことができるようにする。</p> <p>(1)</p> <p>■ウ-①（行動・発言・振り返りカード）</p>

<p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p>	<p>つくって あそぼう</p> <p>○ 身近にある物から発想した遊びを楽しみ、より楽しく遊ぶために考えてつくったり、工夫したりする。</p>  <p>当てて押し出すようにしましょう。</p>  <p>いろいろな転がり方をするようにしましょう。</p>	<p>□ 本を参考にしたり、困ったときに本で調べたりすることができるように、団体貸出で借りた本を活動する場所の近くに設置する。</p> <p>□ 付箋を「できた」「こまった」「せいこうのもと（できなかった）」の視点で分類し、思考を整理しながら交流することができるようにする。(4)</p> <p>□ 失敗も大切な発見であると感じられるように、付箋に書いておくよう声をかける。</p> <p>■イ-②（行動・発言・エリアチャート）</p> <p>□ 学習対象と繰り返し関わることで、気付きや失敗をもとに考えたり工夫したりし、新たな考えを見付けるなど、体験を通して学ぶことができるように活動の時間を十分に取る。</p> <p>■ア-②、ウ-②（行動・発言・振り返りカード）</p>
<p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p>	<p>みんなでたのしくあそべるようにしましょう</p> <p>○ みんなで楽しく遊べるように考えて、遊び方や遊びに使う物を工夫する</p>  <p>ルールは書いて貼ろう。</p> <p>楽しくするために点を決めよう。</p>	<p>□ 段ボール、画用紙などを置いておき、遊ぶ場の工夫やルールの工夫ができるようにする。</p> <p>■ア-②、イ-③（行動・発言）</p> <p>□ お散歩タイムを設定することで、考えを広げたり次の時間にやりたいことを見付けたりすることができるようにする。(5)</p> <p>■ウ-③（行動・発言・エリアチャート・振り返りカード）</p>
<p>15</p> <p>16</p>	<p>みんなでたのしくあそぼう</p> <p>○ 友達や1年生とすすんで関わり、みんなで作ったものや考えた遊びで遊ぶ。</p>  <p>船をうちわで扇いで競争だよ。</p>	<p>□ 1年生と一緒に遊ぶことで、自分の認識をより確かにしたり、新たな視点で考えたりすることができるようにする。(2)</p> <p>■ア-③（行動・発言）、ウ-④（行動・発言・「振り返り」カード）</p>

<p>17</p> <p>18</p>	<p>いっぱいあそんだいっぱいできた</p> <p>○ これまでの活動を振り返り、友達が考えた遊びの良いところを伝えたり、名人認定証を作成したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家にあるものを使っていろいろな遊びを見付けることができました。 ・ 空き容器を使って船を作ることができました。 ・ みんなで楽しく遊ぶことができました。 ・ 自分の発見を友達に教えることができましたようになりました。 ・ また、休み時間にも遊びたいな。 	<p>□ 単元全体を振り返り、名人認定証を作成することを通して自分自身の成長に気付くことができるようにする。(7)</p> <p>□ 自分自身の成長に気付くことができるように、振り返りカード、ウェビングマップやエリアチャートを見ながら振り返るように声を掛ける。</p> <p>■イー③、ウ④（行動・発言・認定証）</p> <p>□ 友達の遊びのよいところを伝え合う機会を設定することで、自分では気付かなかったことにも気付くことができるように促す。</p> <p>■イー④、ウ④（発言・振り返りカード）</p> <p>□ 自分の生活の中でも生かしてみようと思うことができるように促す。</p>
---------------------	--	---

7 検証授業を振り返って

○ 手だての視点A（様々な人との関わり）について

学校図書館の図書館司書の先生に遊びに関する読み聞かせをしてもらうことで、自分も作ってみたいなど興味・関心が広がった。また、休み時間に自分で遊びの本を図書館に借りに行った児童もいた。また、町探検で訪問した「地域の図書館の人にも来てもらいたい。」と次の思いへとつながった。そして今回は、ゲストティーチャーとして来校してもらい、学校でおはなし会を行った。様々な人との交流は、新たな視点をもったり、次の活動の意欲へつながったりし、気付きの質を高めるために有効であったと考えられる。



休み時間に学校図書館に行って調べてみよう。



一つの箱でいろいろなことができるんだね。私もやってみたい。

○ 手だての視点B（気付きの共有）について

遊びの中で気付いたことを表現する場として、素材ごとにウェビングマップを作成したり、遊びごとにエリアチャートやミニホワイトボードを使って発見したことを可視化し、整理しながら考えを交流することができた。また、友達の発見を見て、「いいね」と思った発見に自分の名前を書いた「いいねシール」を貼ることで友達との交流を通して関連した気付きや次の活動への意欲をもつ様子も見られた。

毎時間の活動の後半には、お散歩タイムを設定した。友達がしている他の遊びを見ることで、考えを広げたり、説明することで気付きを再認識したりすることができた。

また、休み時間にも自分が作った物で遊んだり、家で作って遊んだことを友達や教師に伝えたりするなど自分自身の生活に生かしている様子も見られた。

【環境構成の工夫例】

ウェビングマップや今までの活動の写真の掲示

- ・ 素材からできることについての情報を共有することができるようにした。

エリアチャートのパネルの設置

- ・ 思考の整理をしたり、気付いたことを交流したりすることができるようにした。

黒板・ミニホワイトボードの活用

- ・ 今日やりたいことをミニホワイトボードに書いて貼ったり、大発見を書いて貼ったりし、交流することができるようにした。

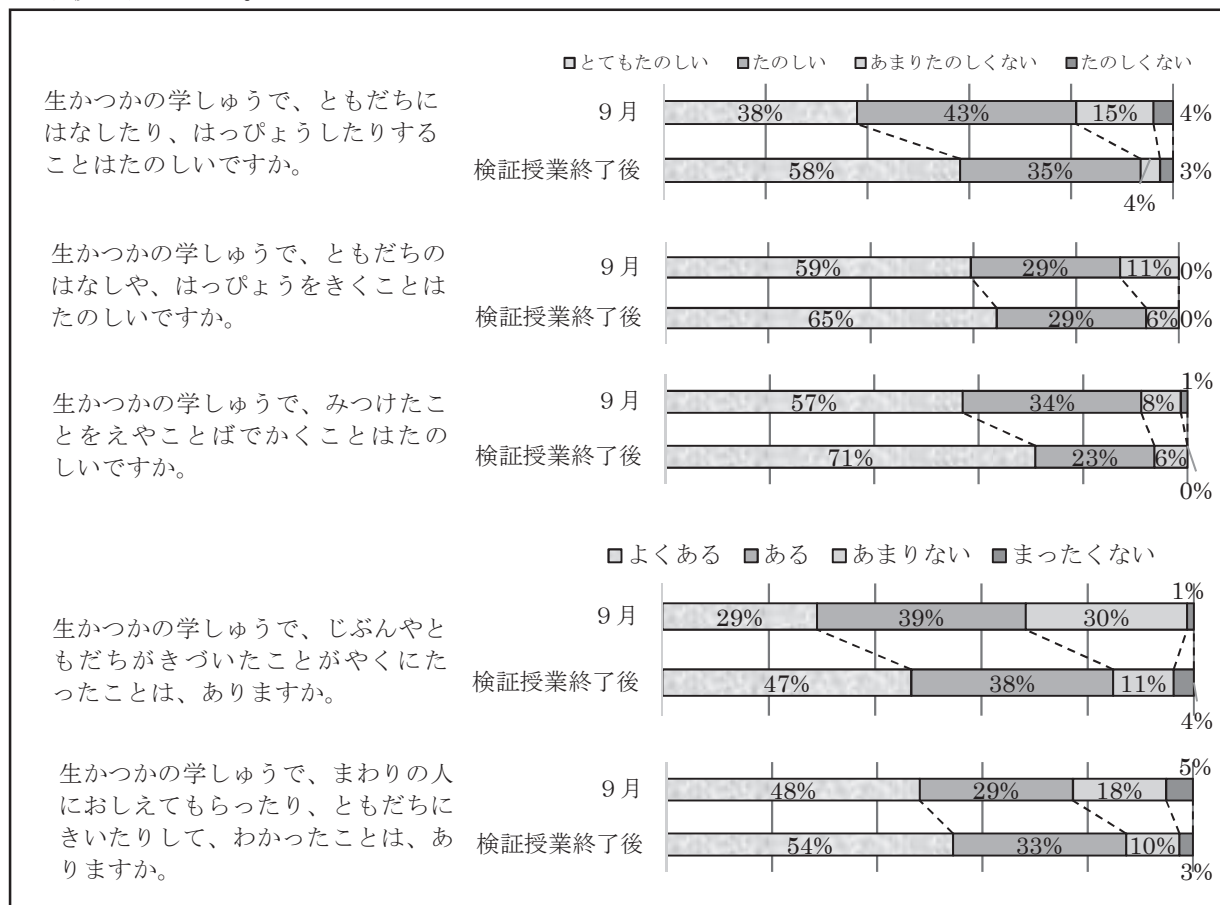
○ 手だての視点C（振り返り）について

カードに記入する振り返りを毎時間の最後に確保したことで、児童の気付きが整理され、再認識する姿が見られた。しかし、気付きの再認識にとどまっている児童が多かったため、単元を通して自分自身の生活とつなげて考えたり、自分自身の成長に気付いたりすることができるようにするために、今後は、活動を通して気付いたことを表現する場面と活動全体を振り返る場面と分けることも有効だと考えられる。

単元の週末に、名人認定証の内容を自分で考えて作成することによって単元を通しての振り返りを行い、身近にある物を使った遊びについて考えたり、自己の成長に気付いたりすることができた。

IV 研究の成果と課題

本部会では、部員所属学級を対象に「生活科の学習に関する実態調査」を9月及び単元終了後に実施した。



[生活科の学習に関する実態調査 研究員担任学級の変容]

(1) 調査結果より

○ 成果

調査結果のデータから、「自分や友達の気づきが役に立つ」や「周りの人や友達に教えてもらって分かったことがある」と強く感じると答えた児童の割合が増えていた。また、「発表すること」「発表を聞くこと」そして「表現すること」において、楽しいと強く感じる児童の割合も増えていた。このことから、本研究における具体的な手だてが有効であったといえる。

○ 課題

より肯定的な意見のみを抽出しているが、全体の割合としてみると半数に近い項目が多く、低いことが分かる。「より楽しい」「より役に立つ」と感じる児童を増やすことができるようにすることが今後の課題である。

(2) 今後に向けて

○ 手だての視点Aについて（様々な人との関わり）

どの単元においても様々な人々と関わる場面を意図的に作ることで、「知らなかったから、もっと見たいな」「こんなこと聞いてみたい」という発言や、「もっとやりたい」「あんな風

にやってみたい」などの発言が見られた。多様な考えに触れることで、児童が視点を広げることができた。また、自分の思いや願いをもつことで、次の活動への見通しをもつことができ、意欲的に取り組む姿が見られたことが成果であった。

○ 手立ての視点Bについて（気付きの共有）

友達の活動を見合ったり、アドバイスし合ったりする場面を設定することで、児童が思考の改善や思考の適用をする姿が見られた。町探検の単元では、友達の気付きを聞いて「地域の人は、そんな思いでやっているんだ。」「ほかのところにも、こんな思いがあるのかな。」と考える様子が見られた。自然や物を使った遊びの単元では、児童が発見したことを互いに見合う場面の設定することにより、児童が友達の考えを聞いたり、一緒に遊んだりして、考えを広げていくことができていたことが成果であった。

○ 手立ての視点Cについて（振り返り）

振り返りを設定することで、気付きの再認識や自己の成長への気付きが見られた。授業後の振り返りでは、その時間で見付けたことをまとめ、発表することで、個人での再認識だけでなくみんなで共有し、みんなで高めていくことができた。また、単元終了時の振り返りでは、これまでの自分を振り返り、自分ができるようになったことを感じ自分自身の成長についての気付きを、児童自身をもつことができた。また、次の活動への思いや願いをもつこともできた。

以上のことから、児童が、友達・地域・教師など身の回りの人との関わりと気付いたことを表現し、共有する活動をくり返すことで、生活科における気付きの質を高めることができたと考えられる。

今後は、引き続き、どの単元においても「他者との協働や伝え合い交流する活動を通して気付きの質をより高めるための指導」をしていくこと、「主体的な学びの視点による指導」と「深い学びの視点による指導」による気付きの質を高めるための指導の工夫について手だてを考えて取り入れていくこと。また、気付きの質の高まった姿をより具体的に想定しておき、評価していくようにすること。以上の三つについて研究を深めていくことが必要だと考える。

平成 30 年度 教育研究員名簿

小学校・生活

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 富 久 小 学 校	教 諭	小 川 幸 子
大 田 区 立 久 原 小 学 校	主任教諭	◎小笠原 さちえ
八 王 子 市 立 散 田 小 学 校	主任教諭	塚 島 大 吾
多 摩 市 立 多 摩 第 一 小 学 校	教 諭	齊 藤 亜 希

◎世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 川路 美沙

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
小学校・生活

東京都教育委員会印刷物登録
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社